



港南中だより

令和6年1月号
港区立港南中学校



校長 佐々木 希久子

令和6年(2024年)が明けました。保護者の皆様、地域の皆様、関係者の皆様、そして、生徒の皆さん、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。また、令和6年能登半島地震について、すべての被害に遭われた方に心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。

2024年はどんな人になりたいですか

今年の干支は「辰」ですが、十干十二支でいえば、「甲辰(きのえたつ)」となります。辰は龍につながり、干支の中では唯一想像上の動物です。また、日本でも昔から龍は神と崇められ、特に水に関係するものを司っている場合が多いようです。また、自由に空を駆け巡る姿から上昇を表し、非常に縁起のよいものとされてきました。港南中生も辰年にあやかっただけでさらに上向きに成長していくことを願います。



命の大切さ

新しい年は何かいいいことありそうな、ウキウキした気分になるものです。しかしながら、今年はお正月早々に大変なことが起きています。

能登半島地震は東京でも揺れを感じました。発生から既に10日経ちますが、まだ安否不明者がたくさんいらっしゃるって、懸命な救助活動が続いています。避難所に入っていられる方も物資の不足と寒さでとても困っていらっしゃいます。何よりも家族を失い、家を失った方々が大勢おられます。また、その、能登に物資を届けようとしていた海上保安庁の方が不幸にも空港内の事故で亡くられました。世界に目を転じてみれば戦争や紛争が続いており、大勢の方が犠牲になられています。

私たちは運よく被害に遭わず、家族や家を失うことなく、3学期始業式の1月9日に再会を果たしました。この日、生徒の皆さんと再会できたことは本当に嬉しかったです。改めて、平和と安全の尊さを教えられた気がしました。そして、港南中生の命のあることに感謝をおぼえました。少し大袈裟かもしれませんが正直な思いです。

そして、考えました。

私たちはどう生きるのかと。

命のあることは当たり前のことだけれど当たり前に消費していくものではない。命のあること、存えていることへの感謝を、もっともっと、もったほうがいいと。そして、その感謝をきちんと表現していくことが大切なのではないかと。生きていることは行動することです。頭や身体を使って考えて動いて自分の生を噛みしめながらそれを他者に表現していくことなのではないかと。

私は、自分が生きていることの感謝は他者に伝えたほうがよいと考えています。生んでくれた人や育ててくれた人。一緒に遊んでくれる人。いつも心配してくれている人。勉強や技術を教えてくれる人。悩みを打ち明けてくれた人。自分の悩みを聞いてくれた人。縁があって、同じ学校や同じクラス、同じ部活や同じサークルで出会った人。これらの人と関わりあっていることが生きている証だと思うからです。自分を取り巻く多くの人と関わりあって、嬉しい関係になっていくことが、そのまま、自分を大切にすること、自分の命を大切にすることにつながると思います。

どうか、港南中生の皆さんには他者と嬉しい関係を築き、維持をして、「生きててよかった」と思える人生を送ってほしいです。まずは挨拶からでしょうか。